

生徒理解を支援するための情報共有の工夫

— 生徒の活動・観察記録をデータベース化した「MYレコード」の作成と活用を通して —

長期研修員 三宅 浩樹

《研究の概要》

本研究では中学校において生徒情報の共有の手だてとして、職員室LANにグループウェアを導入し、生徒の活動・観察記録をデータベース化した「MYレコード」を作成した。さらにその有効活用のために、全体研修、活用ルール作成、学年別操作体験、個別支援を段階的に行った。グループウェアの利便性や情報共有の有効性を職員が実感するにつれ、「MYレコード」が積極的に活用されるようになった。その結果、生徒理解を支援するための生徒情報の共有を推進することができた。

キーワード 【生徒情報 情報共有 データベース グループウェア】

I 主題設定の理由

1 生徒情報の共有について

教員は生徒に関する様々な情報をもとに、適切な指導に努めなければならない。

中学校は教科担任制のため、自分が受け持っている授業以外の生徒の様子は把握しにくい。学級担任の担当教科によっては、自分のクラスの生徒とほとんど顔を合わせない日もある。生徒に関する情報を共有するために、多くの職員が予定を合わせて頻繁に情報交換の場を設定するのが難しい。

協力校で生徒に関する情報の共有を把握するために、アンケート調査を行った。85%の職員が「情報交換（観察情報の共有）が生徒理解をする上で有効である」と回答した。生徒理解のための情報交換の課題は、「他学年の詳しい情報がわからない」がもっとも多く、次いで「口頭で行われ、記録に残らない」「機会が少ない」という回答が多かった（図1）。また、学級担任への聞き取り調査から、生徒の観察情報を蓄積し、通知票所見を充実させたいという声も聞かれた。

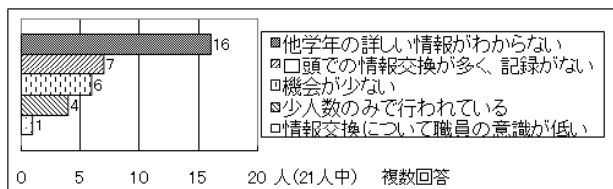


図1 生徒理解のための情報交換の課題

生徒に関する情報については、観察情報だけでなく、委員会や学校行事、部活動等の成績など、特別活動の記録もある。この活動記録について、

協力校では生徒個人が用紙に記入して学年ごとにファイルに綴じて3年間利用している。この活動記録について、アンケート調査では「記入漏れや誤記が多い」と感じている職員が多い。また、「様式が学年間で統一されていない」「記入上のルールがあるとよい」という声も多かった。

生徒理解のための情報交換や生徒の活動記録についての課題を解決するためには、職員間の生徒情報の共有を工夫しなければならない。

2 協力校の情報化の現状

協力校は職員室LANが整備され、サーバを利用してプリンタや文書ファイルが共有されている。グループウェアは導入されているが、その利点や操作を理解するための研修の時間が十分にとれず、職員は操作に慣れていない。そのためグループウェア活用の利点が浸透せず、ほとんど活用されていない。

アンケート調査によれば、職員のコンピュータ操作の技能には差があるが、電子メールの操作は76%の職員が「できる」と回答している。

また、セキュリティ対策については、今年度より市から職員に暗号化対応のUSBメモリが配付された。そしてUSBメモリの管理ルールも決められ、データの安全管理が強化された。

3 グループウェアを活用した情報共有の工夫

先行研究で、グループウェアの活用は職員間の情報共有に有効であると示されている。そこで、日々の生徒の活動・観察記録をグループウェアを活用してデータベース化すれば、複数の職員による生徒の観察情報や指導記録を共有できる。この

仕組みができれば、教科担任制であるからこそ多くの職員の目で生徒を見取ることができる。

しかし、グループウェアについては、先行研究から、活用ルールを明確にし、職員に対する操作支援が継続的になされないと活用が進まないことが課題となっている。そのため、有効活用を促すための校内支援体制を整備する。そうすれば、生徒理解を支援するための情報共有を推進することができると考えた。

II 研究のねらい

中学校における生徒の活動・観察記録をデータベース化した「MYレコード」を作成し、その有効活用のための校内支援体制を整備すれば、生徒理解を支援するための情報共有を推進することができることを明らかにする。

III 研究の見通し

1 生徒の活動記録や諸活動における指導・観察の記録をデータベース化した「MYレコード」を作成し活用することによって、有効な生徒情報の共有ができるであろう。

2 校内支援体制を整備して、「MYレコード」の有効活用を促すことによって、生徒理解を支援するための情報共有を推進することができるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

生徒理解をする上で、多面的な生徒情報は重要な要素である。複数の職員からの様々な情報を共有することによって、生徒理解を支援するための生徒情報が収集できる。

本研究は、生徒情報の共有のための手だてとしてグループウェアを活用する。職員ネットワークにグループウェアを導入し、生徒情報をデータベース化した「MYレコード」を作成する。

さらに、先行研究においてグループウェア活用の課題であった校内支援体制の整備については、全体研修、情報推進委員会の組織、活用ルールの作成、学年別操作体験、個別支援を段階的に行う。そうすれば「MYレコード」が有効活用され、生徒理解を支援するための情報共有を推進することができると考えた。図2は、研究構想図である。

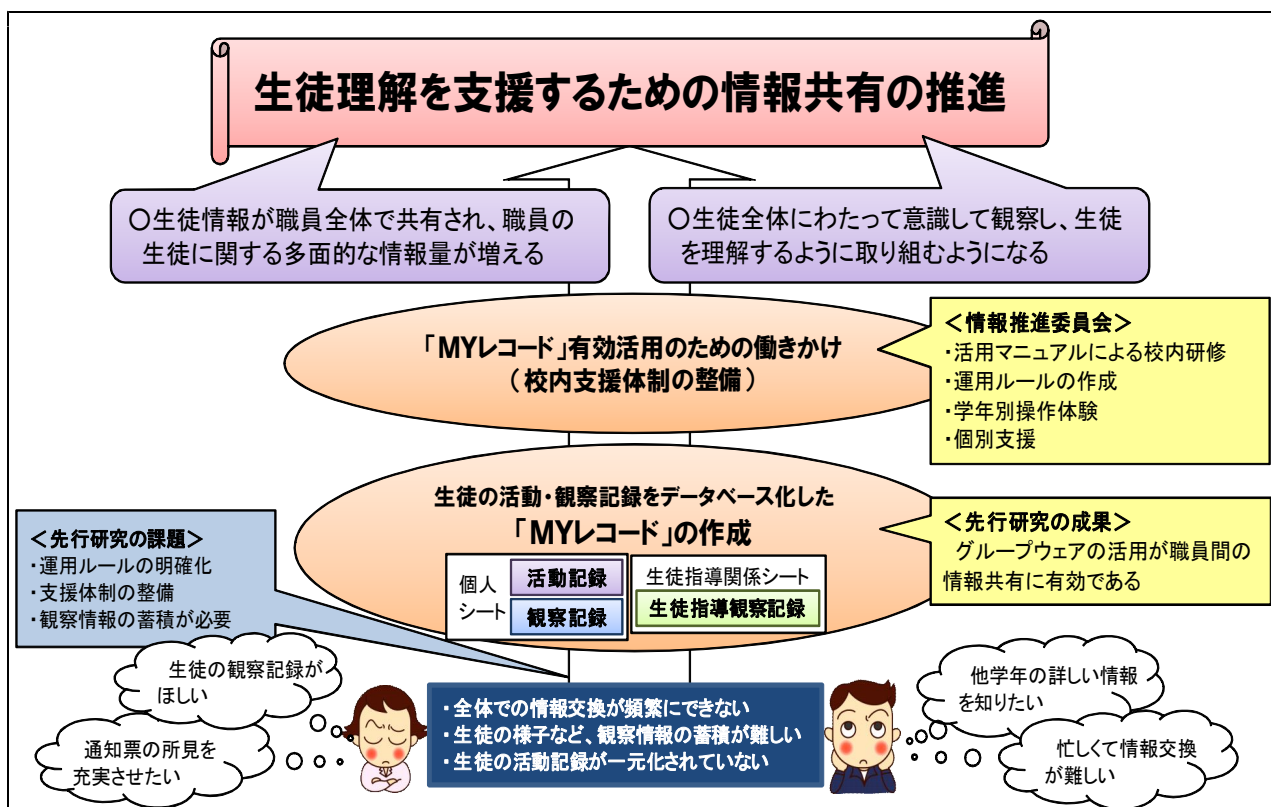


図2 研究構想図

(1) 「MYレコード」について

「MYレコード」は次の3つの記録を生徒情報としてデータベース化する。個人について、特別活動や部活動、資格取得の記録等を「活動記録」とし、学校生活全般における各生徒の様子の記録を「観察記録」とする。学級・学年をこえた全体にかかわる生徒指導関係の記録を「生徒指導観察記録」とする（図3）。

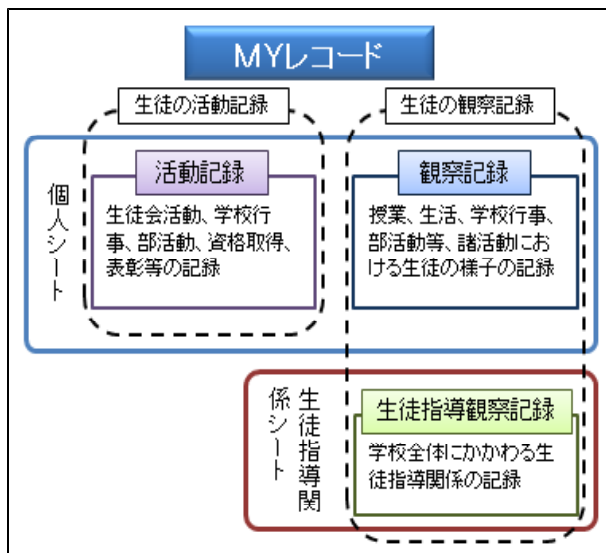


図3 「MYレコード」

これらの記録を複数の職員で共有すれば、職員が多面的な視点の生徒情報の収集ができると考える。作成にあたっては、セキュリティ対策がなされたグループウェアを活用する。

「MYレコード」には、生徒の「よいところの発見」に重点をおいた様々な事実を記録する。もちろん生徒の心配な面も書き込むが、特に「観察記録」は、複数の職員が、気にとまった生徒のよいところは些細なことでも容易に書き込める工夫をする。

蓄積された生徒情報を職員が用途に応じて参照して、生徒情報の収集や表簿類作成のために活用する。「MYレコード」の活用が定着すれば、職員それぞれの視点で書かれた生徒の様々な情報を共有することができ、生徒理解を支援する多面的な生徒情報の収集が可能になる。

生徒によっては、多くの書き込みがある者もいれば、1件も書き込みのない生徒もでてくる。書き込みの有無が分かるように一覧表にして、それを確認することで、職員の目を書き込みのない生徒にも向くようになる。さらに職員自身にも生徒をよく見る習慣がついてくることが考えられる。

(2) 有効活用を促すための校内支援

先行研究でもグループウェアについては、環境を構築しても、活用ルールを明確にし職員に対する操作支援が継続的になされないと、活用が進まないことが課題となっている。

そのため、まず活用マニュアルによる校内研修を実施する。そして、情報推進委員会（校長、教頭、教務主任、情報主任、各学年担当、長期研修員）を組織し、運用ルールの作成、学年別操作体験、個別支援を行う。このことによって「MYレコード」の活用を促進することができると思う。

(3) 生徒理解を支援するための情報共有を推進することができた状態

- 生徒情報が職員全体で共有され、職員の生徒に関する多面的な情報量が増えること。
- 生徒全体にわたって意識して観察し、生徒を理解するように取り組むこと。

具体的には、グループウェアなどの手段を利用して、多くの職員が目で見取った生徒情報を職員全体で共有し、生徒の情報量が増えること、さらには、これをきっかけとして、生徒に関して職員間の口頭での情報交換が密になっていくことである。

そして、あまり目を向けられていない生徒を、複数の職員が意識的に見取ることによって、その生徒の情報量が増えていくことである。生徒全体にわたってまんべんなく生徒について理解していくことを示す。

2 研究の流れ

本研究では、協力校において、生徒情報の共有の現状、職員の情報セキュリティの意識やコンピュータ操作等に関する調査を行い、協力校の実態を基に、グループウェアを導入し、「MYレコード」を作成する。

夏季休業中に「MYレコード」を導入し、全職員に対して、「MYレコード」有効活用のための校内研修を行う。さらに「MYレコード」運用マニュアルを作成し、2学期から本格的に活用を始める。また、「MYレコード」の運用・管理のために情報推進委員会を組織する。

2学期は、活用支援や校内研修を行い、「MYレコード」を継続的に活用するように促す。また、活用状況の調査も行う。

2 学期最後に職員の意識の変化を把握するために意識調査を行い、生徒情報の共有が進み、生徒

理解が深まったかを検証する。
研究の流れを図 4 のように示す。

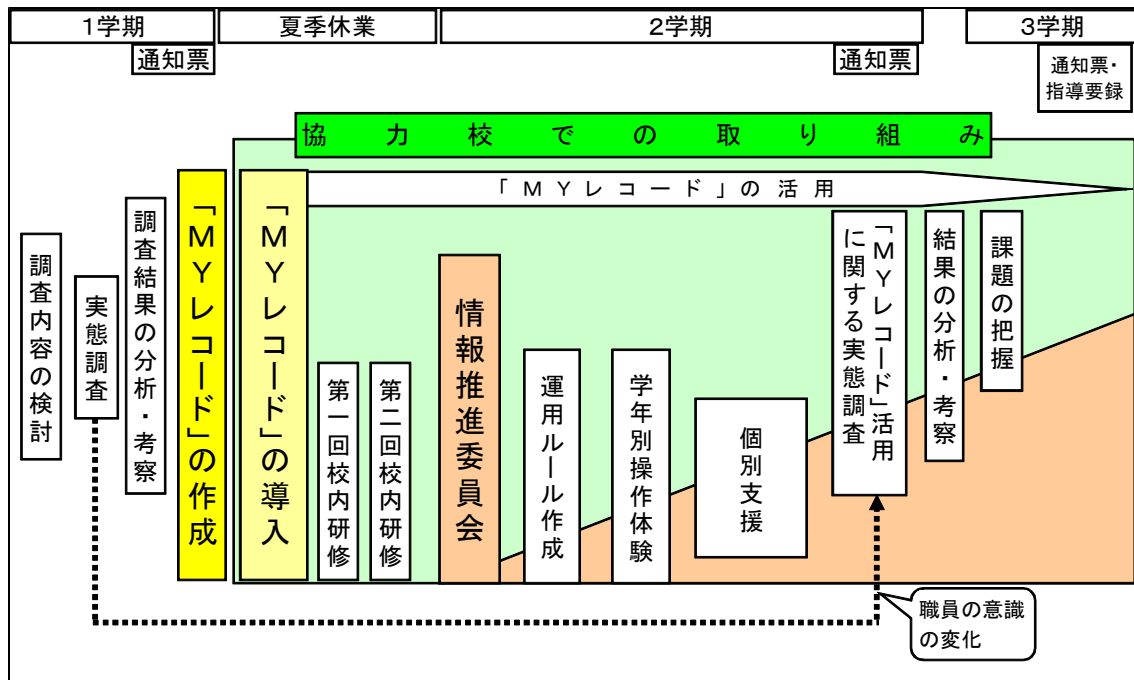


図4 研究の流れ

3 研究の方法

(1) グループウェアの導入

① NetCommons(ネット・コモンズ)の導入

1 台のコンピュータをWebサーバとして図 5 のような環境で構築し、職員室LAN上に導入した。NetCommonsは、国立情報学研究所が研究・開発

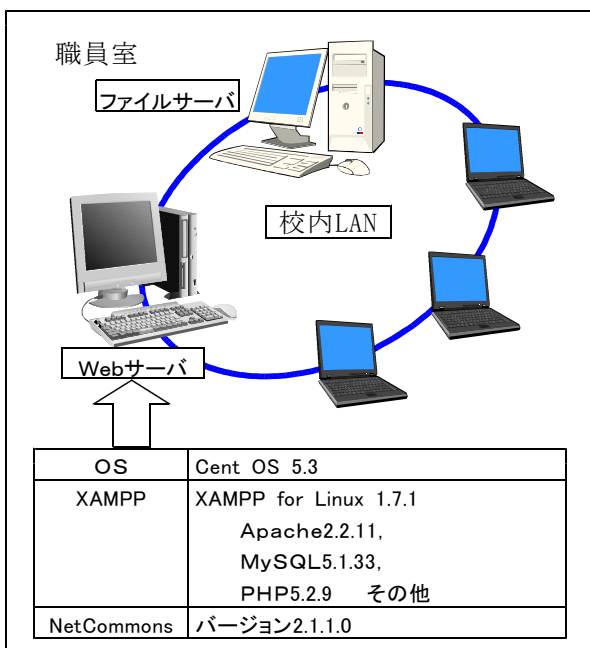


図5 職員室の環境

したグループウェア機能を持つソフトウェアである。このソフトウェアは、NetCommons公式サイトから無料で提供されている。

② NetCommonsの特長

NetCommonsの特長は、必要な機能を選択し、目的にあった情報共有の環境を構築できること。また、電子メールを送受信できる程度の操作技能があれば、容易に活用できることがあげられる。

NetCommonsは、管理者が利用者のユーザ名とパスワードを登録する。そして利用者がそのユーザ名とパスワードを入力し、ログインすることで利用できる。そのため、セキュリティにも配慮して活用することができる。

(2) 「MYレコード」の作成

NetCommonsをグループウェアとして活用し、生徒情報をデータベース化すると、「情報の一元化」「必要な情報の容易な検索」「複数の職員による同時書き込みや参照」などが可能になる。

図 6 は、「MYレコード」の概要である。「MYレコード」作成ために活用したグループウェア機能は、データベース（汎用データベース）、共有フォルダ（キャビネット）、電子掲示板（日誌）、新着情報である。

※ ユーザ名とパスワードを入力してログインすると、このような画面が開く。「職員室」というルームである。新着情報が確認できる。

ログインに成功しました
左カラムのメニュー(MYレコード)から各ルームにお入りください。

※ この「メニュー」のリンクをクリックすると、ルームやページ間を移動できる。

※ メニューの「1学年」「2学年」「3学年」「4組」をクリックすると、「活動記録」「観察記録」が入った「個人シート」の画面が表示される。

※ メニューの「生徒指導関係」をクリックすると、「生徒指導観察記録」が入った「生徒指導関係シート」の画面が表示される。

「活動記録」は、各項目で検索できる。

「観察記録」は、主に生徒のよいところを書き込む。

「生徒指導関係キャビネット」は、生徒指導委員会の資料や会議録を、PDFファイルとして保存する。

「生徒指導日誌」は、クラスや学年をこえた生徒指導にかかわることがあったら、関係職員が書き込む。

メニュー

トップページ

管理者のお部屋

▼MYレコード

職員室

保健室

1学年

2学年

3学年

4組

生徒指導関係

研修推進委員会

運動委員会

行内反省・アンケート

リンク追加 リンク編集

新着情報

最新 5日分

11月9日

氏名 赤城 太郎

フリガナ 7が 太郎

男

1組

0

数学係

学級委員

前期委員(役職) 書記

後期係 理科係

後期委員会 情報委員

後期委員(役職) 委員長

委員会(その他) 選挙管理委員(副委員長)

部活動 男子バスケットボール部

部(役職等) キャプテン

部活動(その他) 駅伝部

資格 数学検定3級
英語検定4級
空手初段

行事 クリーン作戦実行委員長

備考 弟(1年2組 浩樹)

活動記録

表彰・その他 ○○市中体連新人バスケットボール大会 優勝
□□県中体連新人バスケットボール大会 第3位

記入者:ncadmin | コメント(2)

コメント

ncadmin 2009/08/11 01:55:56
本日の生徒玄関清掃では、友だちと協力しながら「ラベルはがし」に取り組み、すばらしくきれいに仕上げた。

2009/08/21 01:24:23 編集 | 削除
本日<三平方の定理>の数学の時間はとても意欲的で、斬新な考えを発表し、周囲を感心させた。最近はとても集中している。

観察記録

生徒指導観察記録

生徒指導関係キャビネット

フォルダ作成 ファイル追加 圧縮→ダウンロード 解凍する ごみ箱

名前	サイズ	作成者	
10月		管理者	🔒
11月			🔒
2009年12月02日13時10分24	89.5K		🔒 (14)
2009年12月16日19時09分49	58.1K		🔒 (12)
盗難被害1	86.5K		🔒 (15)
落書き報告7/29.pdf	85.2K		🔒 (71)

生徒指導日誌

長期休業中の生徒の様子

記事を書く

カテゴリ選択

10件

2009/09/03 夏季休業中の報告(例)です。 by:ncadmin

○年○組のA君が、◇月◇日から体調不良と言って部活を休んでいます。△年△組のB君と他校生と一緒にいるところを友人が見たという情報が入りました。本日電話連絡したら、本人は家に居ませんでした。母親と話のできたので、本日の夕方に家庭訪問する約束をしました。

編集 | 削除

コメント(0)

図6 「MYレコード」の概要

○ 汎用データベース

「個人シート」(図7)は汎用データベースを活用している。各学年ルームにあり、生徒情報の個人についての「活動記録」と「観察記録」をデータベース化できる。

氏名	赤城 太郎	
フリガナ	アカギ タロウ	
性別	男	
クラス	1組	
番号	0	
前期係	数学係	
前期委員会	学級委員	
前期委員(役職)	書記	
後期係	理科係	
後期委員会	情報委員	
後期委員(役職)	委員長	
委員会(その他)	選挙管理委員(副委員長)	
部活動	男子バスケットボール部	
部(役職等)	キャプテン	
部活動(その他)	駅伝部	
資格	数字検定3級 英語検定4級 空手初段	
行事	クリーン作戦実行委員長	
備考	弟(1年2組 浩樹)	
表彰・その他	〇〇市中体連新人バスケットボール大会 優勝 □□県中体連新人バスケットボール大会 第3位	

記入者:ncadmin | コメント(2)

コメント

ncadmin 2009/08/11 01:55:56
本日の生徒玄関清掃では、友だちと協力しながら「ラベラはがし」に取り組み、すばらしくきれいに仕上がった。

2009/08/21 01:24:23 編集 | 削除
本日(三平方の定理)の数学の時間はとても意欲的で、斬新な考えを発表し、周囲を感心させた。最近はとても集中している。

図7 個人シート

○ キャビネット

様々なファイルをアップロードして、職員間で共有できる。生徒指導関係キャビネットでは、生徒指導委員会の報告等をPDFファイルとして保存し、職員が参照できる(図8)。生徒指導関係ルームにある。



図8 生徒指導関係キャビネット

○ 日誌

クラスや学年をこえた生徒指導にかかわることがあったら関係職員が書き込む。メールを利用する感覚で書き込みや参照ができる(図9)。生徒指導日誌は、生徒指導関係ルームにある。

生徒指導日誌

長期休業中の生徒の様子

記事を書く

カテゴリ選択

10件

■ 2009/09/03 ■ 夏季休業中の報告(例)です。 by:ncadmin

○年○組のA君が、◇月◇日から体調不良と言って部活を休んでいます。△年△組のB君と他校生と一緒にいるところを友人が見たという情報が入りました。本日電話連絡したら、本人は家に居ませんでした。母親と話ができたので、本日の夕方1に家庭訪問する約束をしました。

編集 | 削除

コメント(0)

図9 生徒指導日誌

○ 新着情報

個人シートや生徒指導日誌等に新しい書き込みがされたり、キャビネットにファイルがアップロードされると、最新の情報が一覧になって表示される。職員室ルームにあるので、ログインするとすぐに新着情報が確認できる(図10)。

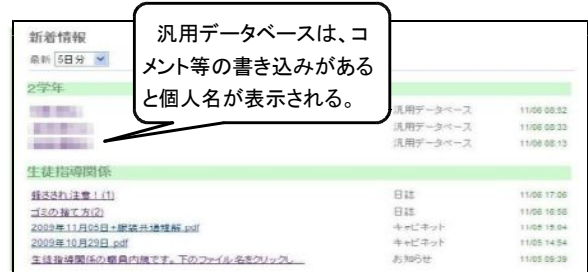


図10 新着情報

(3) 「MYレコード」有効活用のための校内支援

「MYレコード」有効活用のために、段階的な校内支援を行った。

① 第1回校内研修(「MYレコード」の導入)

協力校にWebサーバ用のコンピュータを設置後、8月上旬に第1回校内研修において、グループウェアを活用した生徒理解を支援するための生徒情報の共有について説明をした。

操作体験では、まず、全職員にグループウェアの利便性を実感してもらうために、「掲示板」と「キャビネット」機能を体験してもらった。

「掲示板」は、職員が情報を交換したり議論したりするために提供されている機能で、メールを利用する感覚で書き込みや参照ができる。

「キャビネット」の体験では、実際に最近起きた問題行動の概要を生徒指導主事が「キャビネット」にファイルをアップロードし、全職員は、

自席でコンピュータの画面を見ながら、生徒指導主事からの報告を聞いた(図



図11 第1回校内研修の様子

11)。

「掲示板」と「キャビネット」機能を体験した職員的主要感想や意見は次の通りである。

- すばらしい仕組みだと思う。
- メール感覚で手軽に情報交換できる。
- これならペーパーレスで打ち合わせなどができる。
- 行事の反省など簡単にコメントできる。
- 複数の職員が同時に書き込みしたり参照したりできる。
- いろいろなことに応用できそう。

この体験でかなりの職員が、グループウェアに対して、抵抗感の軽減や情報共有の有効性を実感できた。この研修後すぐに、ある職員が学校行事の反省の意見を求める連絡を「掲示板」に投稿して、それに返信する複数の職員の姿があった。

② 第2回校内研修

8月下旬、第2回の校内研修では、実際に生徒情報の共有の仕組みを具体的に説明した。「MYレコード操作マニュアル」を作成し、簡単な体験も行った(図12)。



図12 コメントを書き込んでいる様子

研修後の主な感想・意見は次の通りである。

- 多くの活動記録などの情報が一元化される。
- 生徒の様子をメール感覚でコメントできる。
- 名前・顔写真・活動記録が一つのシートの中にあるので、生徒のことがよく分かる。
- 生徒の様子などの観察記録が蓄積されるので通知票所見などに役立つ。
- 操作に慣れるまで、面倒に感じる。
- 活用ルールが必要である。また、観察記録のコメントの文例があるとよい。

③ 情報推進委員会

情報推進委員会については、新たに組織するのは難しい面があるので、研修推進委員会が情報推進委員会を兼ねることにした。研修推進委員会(校長、教頭、教務主任、情報主任、各学年担当、長期研修員)のメンバー構成が、情報推進委員として考えていたメンバーとほぼ同じであるというのも理由である。

9月中旬、情報推進委員による「MYレコード」活用推進のための会議をした(図13)。運用ルールの内容の検討や、ルールと活用例を盛り込んだ、「MYレコード活用の手引き」を作成することが話し合われた。「MYレコード」の活用を推進させるために、学校の現状を考慮しながら話し合いができた。この委員会での内容を1週間後の職員会議において提案した。



図13 情報推進委員会の様子

④ 運用ルールについて

運用ルールは、全般・セキュリティ関係・その他(機器のトラブル等の対応)の3つで構成されている。運用ルールの一部を図14に示す。

【運用ルール】
※このルールは、学校にいる日に適用されます。

<全般>

1. 職員は出勤後ただちに、情報共有のためにパソコンの電源を入れ、〇〇中グループウェアを立ち上げ、ユーザ名とパスワードを入力してログインする。(情報推進委員は電源ONを確認する)
2. 全職員は、気付いたときに観察記録にコメントを書き込む。
3. 担任は、週2回程度は、自分のクラスの個人シートを確認する。
4. 書き込みの少ない生徒については、対象生徒を重点的に記入する日時を設け、コメントの書き込みができるようにする。(学年会等の後など)
5. 生徒指導主事は、生徒指導委員会の資料・会議録を、会議終了後、「生徒指導関係キャビネット」(ファイル等を保存して全職員で共有できる)の中に保存する。職員は、生徒指導主事からの報告後、生徒指導関係シートを参照する。
6. 全体の生徒指導にかかわることや共通理解を図りたいことは、生徒指導関係シートの「生徒指導日誌」に、直接関係する職員が書き込みをする。
7. 特別活動の記録等の編集・追加については、原則的に、係・委員会名等の決定や各種大会終了後、及び検定等の結果発表後、2週間以内に次の担当者が行う。

図14 運用ルールの一部

⑤ 学年別操作体験

10月上旬、学年の情報推進委員による学年別操作体験を実施した。主に「汎用データベース」の操作を学年単位で体験した(図15)。



図15 学年別操作体験

職員は、活動記録の内容の追加・編集について具体的な操作と、「特別活動・部品集」の活用方法の説明を受けた。「特別活動・部品集」とは、表計算ソフトを活用して作成したもので、係・委員会名や行事名、その他多くの大会やその結果等の正式名称が種類別に一覧になっているものである。「活動記録」の内容を追加・編集する際に、手入力しなくても「特別活動・部品集」のデータを再利用して入力でき、名称の統一化が図られる。

観察記録については「MYレコード活用の手引き」の文例を見ながら、実際に、ある生徒を思い浮かべ、よいところのコメントを入力してもらった。すべての職員が、その場ですぐに書き込みが

できた。主な感想・意見は次の通りである。

- 少人数なので、具体的で分かりやすかった。
- パソコンを前にして、操作方法など気軽に質問できたのでよかった。
- 個人シートへの書き込みの方法が、よく分かった。
- 操作方法がよく分かって、すぐに使えるようになった。
- 「特別活動・部品集」は、大会名称などが統一され、データをコピーできるので便利である。

⑥ 個別支援

10月下旬～11月下旬、職員がコンピュータ操作が分からないとき、情報推進委員が適宜個別に支援を行った。操作でつまづいたときなど、個別にその場で対応できるので、「役に立った」「よく分かった」という感想がほとんどであった。

V 結果と考察

協力校において、「MYレコード」導入前と活用後の職員の意識の変化を把握するために、実践後にアンケート調査や聞き取り調査を行い、19人の回答を得た。

1 「MYレコード」の活用によって有効な生徒情報の共有ができたか

「MYレコードは情報共有に有効である」という質問に対しては、100%の職員が「思う」と回答した。「活動記録」「観察記録」「生徒指導観察記録」のそれぞれの質問に対して、回答の「思う」「やや思う」を合わせると、すべて100%になっている。主な質問の回答は図16の通りである。

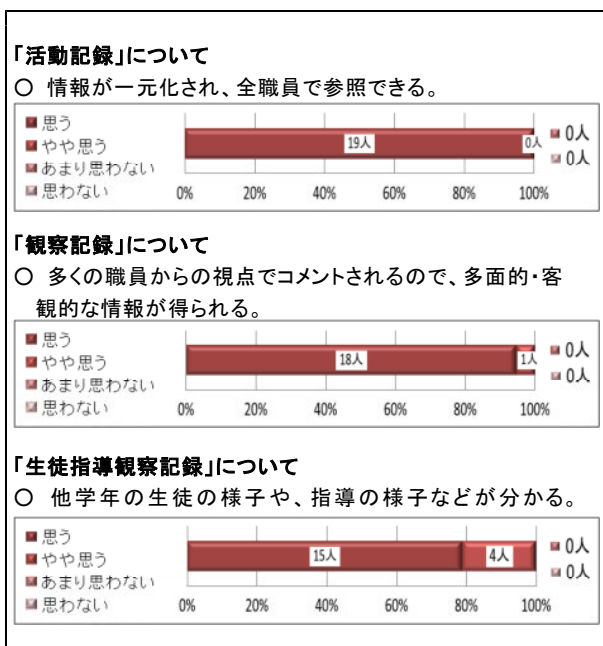


図16 「MYレコード」に対する回答

「どのように活用したか」の質問の回答は図17の通りである。

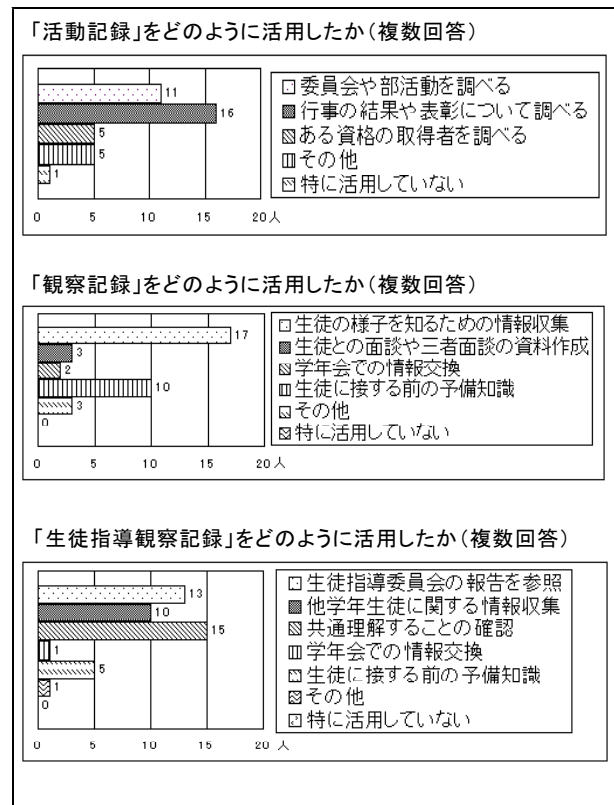


図17 「MYレコード」をどのように活用したか

その他の記述では、「個人シートは生徒の顔写真が載っているので、他学年の生徒の顔を覚えるのに活用した」という内容の回答が4件あった。

聞き取り調査からの主な感想・意見は次の通りである。

- 個人シートに、顔写真・活動記録・観察記録が一覧になっているので、活用しやすい。
- 一年生は情報が少ないので、様子のコメントがとても参考になる。
- 観察情報は、記録が残っていることがとてもよい。コメントを読むと思い出することができるので、通知票所見作成の際に有効である。
- 小さなことが多面的に分かるのがよい。問題行動などは早期発見につながる。
- 生徒指導観察記録は、きめ細やかな共通理解がすぐできるのでよい。
- 総合的な学習の時間の取り組みなどは、テーマによって、教室を分けるので、各教室の担当教師が生徒の様子をコメントするとよい。
- とにかく活用を習慣化することが大切である。

また、学級担任を対象に聞き取り調査を行い、「2学期の通知票の作成の際に、「MYレコード」が役に立ちましたか」という質問に対して、「活動記録」については、担任のほぼ全員が、「役に

立った」と回答している。「観察記録」については、2学期の通知票の所見に活用が見られた。学級担任以外の職員が見取った生徒のよい姿を、通知票を通して、保護者や本人に伝えることができた。図18は、その一例である。

コメント

2009/11/09 08:47:56 編集 | 削除
自主勉強をこつこつと、頑張っている。わからないところも、素直に聞き理解しようとする。

2009/11/26 16:39:54 編集 | 削除
勉強では地道な努力をしています。特に、漢字テストでは頑張っています。

2009/12/13 12:54:10 編集 | 削除
朝学習係の仕事をお忘れずに頑張ってくれている。自分がやるべきことは、責任を持ってやってくれる。

↓

通信欄 学校より

②国語の漢字テストや数学の自主勉強など、複数の教科でこつこつと努力する様子が見られました。それが、意欲・関心の観点で良い評価が多いことにつながっていると思います。また、朝学習係の仕事や給食当番など、自分のやるべきことをしっかりとやってくれました。3学期以降も、この調子でやっていきましょう。(12/24)

2009/11/06 16:17:15 編集 | 削除
数学の授業中に隣の席の...に親切に教え、掃除中も同じ期の...の作業を促すなど、とても面倒見がいい。

↓

通信欄 学校より

②どの教科の授業にも前向きに取り組み、家庭学習にもしっかり取り組んでいることが、先生やクラスメートにも認められています。これが頑張賞(学習部門)受賞につながりました。また、クラスメートが困っていると勉強を教えたり、掃除の時間に周りに作業を促したり、積極的に人に関わろうという姿勢も素晴らしいと思います。これからもこの調子で頑張ってください。(12/24)

図18 通知票所見に反映された例

また、「MYレコード」を参照して、内容(よい面)について、声かけなどで本人や保護者に話げできた職員もいた。

考察すると、「MYレコード」の「活動記録」は、全員が「情報が一元化される」と感じていて、しかも顔写真もあるので、生徒の活動状況を把握しやすいことが分かる。「観察記録」については、生徒の様子を多面的に知ることができたり、通知票所見に生かしたりできることが分かる。また、「生徒指導観察記録」については、生徒指導上の共通理解がきめ細かくできることや他学年の生徒の様子を知ることができることが分かる。

以上のことから「MYレコード」の活用によって有効な生徒情報の共有ができたと考える。

2 校内支援によって「MYレコード」活用が促進されたか

情報推進委員会を組織し、全体研修、学年別操作体験、個別支援と、段階的に校内支援を行ったが、これについては、それぞれ「役に立った」と回答した職員は9割をこえた。

図19のグラフは全職員の月別のアクセス回数とログイン回数をグラフに表したものである。

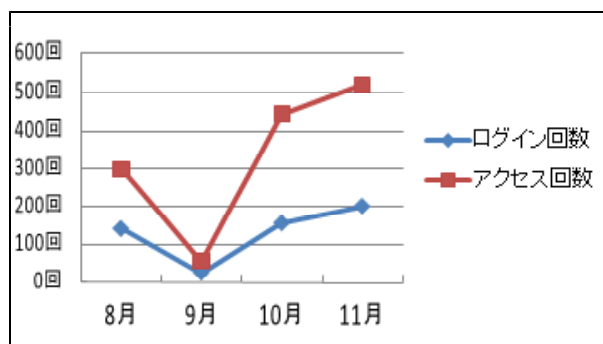


図19 全職員のログイン回数とアクセス回数

「MYレコード」を導入し、全体研修が2回実施された8月に比べ、9月は、アクセス回数とログイン回数ともに減少した。これは、活用の習慣がまだ身に付いていないためと考える。しかし、10月は大幅に増加した。この理由として、10月上旬に実施した学年別操作体験と、管理職のリーダーシップに基づいた職員会議での意識統一が図られたことの効果が考えられる。職員が操作に慣れ、「MYレコード」による情報共有の有効性を実感し、活用が促進したと考えられる。その後個別支援を行った11月もさらに増加した。

また、ある学年では観察記録に一回もコメントのない生徒を確認し、学年会の際、情報推進委員が一覧にして配付した。それがきっかけとなり、職員間の情報交換が密になった。コメントのない生徒は、複数の職員によってコメントの書き込みが行われた。

以上のことから、校内支援によって「MYレコード」活用が促進されたことが分かる。

3 生徒理解を支援するための情報共有を推進することができたか

「MYレコード」の活用を通して、生徒理解を支援するための情報共有を推進することができた

かを、次の視点から考察した。

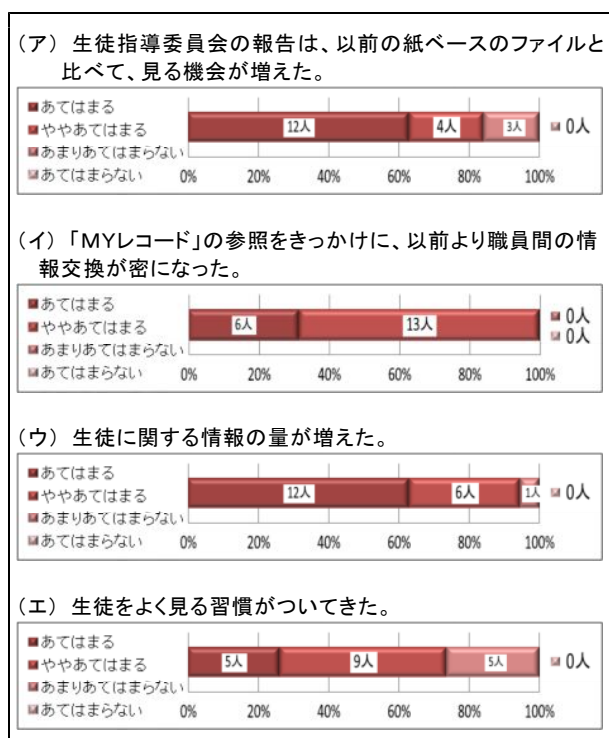


図20 「MYレコード」導入後の変容

図20の(イ)、(ウ)から分かるように、「以前より情報交換が密になった」「生徒に関する情報が増えた」の質問に対して、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせると、(イ)は100%、(ウ)は95%になった。

(エ)から分かるように、「生徒をよく見る習慣がついてきた」の質問に対して、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせると、74%になった。「あまりあてはまらない」と回答した職員に対し聞き取り調査をしたところ、以前から観察記録をメモしていたり、積極的に多くの生徒と対話していたりして、すでに生徒をよく見る習慣が身に付いていたためであることが分かった。

以上のことにより、「MYレコード」の活用を通して、生徒理解を支援するための情報共有を推進することができたと考えられる。

また、自由記述では、「ネットコモンズを学校評価に使えないか」「朝の打ち合わせ等をグループウェアを活用して、効率化できないか」という声も多かった。「MYレコード」の活用を通して、グループウェアの利便性や情報共有の有効性を実感できた職員は、グループウェアの新たな活用場面を模索し、学校の情報化への意識が高まった。

VI 成果と課題

1 成果

- グループウェアを活用して、生徒の活動記録や観察記録をデータベース化した「MYレコード」を作成し、有効な生徒情報の共有ができた。
- 校内支援体制の整備として、情報推進委員会を組織し、「MYレコード」活用推進のための全体研修・学年別操作体験・個別支援を実施、及び運用ルールの作成によって「MYレコード」活用が促進され、生徒理解を支援するための情報共有を推進することができた。
- 「MYレコード」の書き込みがきっかけとなり、職員間の情報交換が密になった。
- 職員は、「MYレコード」の活用を通して、学校の情報化への意識が高まった。

2 課題

- 「MYレコード」の活用に差があるので、校内研修の年間計画に位置づけたり、「朝の打ち合わせ」などの活用を視野にいれたりして、必要性を高める工夫が重要である。
- 「個人に関する活動記録や観察記録が、通知票に反映されるといい」という声が多く、今後、表簿類と連動するシステムの構築が必要である。
- 観察記録の書き込み状況を把握し、書き込み件数の差を今後の生徒指導に生かす。

<参考文献>

- ・文部科学省 『教育の情報化に関する手引』 (2009年)
- ・平成20年度長期研修員 加部 豊 『校務の効率化に関する研究』 群馬県総合教育センター (2008年)
- ・平成19年度長期研修員 神原 秀明 『校務の効率化を目指した時間マネジメントに関する研究』 群馬県総合教育センター (2007年)
- ・井上 志朗 著 『知恵と工夫の学校経営』 高陵社書店 (2008年)
- ・『NetCommons2.0 オンラインマニュアル』 (<http://www.netcommons.org>)